

令和 7 年度病害虫発生予察 特殊報第 1 号

令和 7 (2025) 年 11 月 7 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

1 害虫名 和名：チュウゴクアミガサハゴロモ

学名：*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)

2 発生作物 カンキツ（温州みかん、ポンカン）

3 発生経過

- 1) 令和 7 (2025) 年 9 月 17 日、県南部のカンキツ園において、本県で未発生のチュウゴクアミガサハゴロモ (*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)) と疑われるハゴロモ類の成虫および枝への産卵を確認した。
- 2) 農林水産省門司植物防疫所に捕獲した成虫の同定を依頼した結果、チュウゴクアミガサハゴロモ (*Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977)) であることが判明した。

4 国内での発生状況

本種は中国原産で、平成 27 (2015) 年※に大阪府で初めて侵入が確認されて以来、関東以西から九州まで各地で発生が確認されており、19 都府県で特殊報が発表されている (11 月 6 日現在)。

※初確認年は、春澤・宮武 (2023) により 2017 年と報告されていたが、Kobayashi et al. (2024) により 2015 年と報告された。

5 形態及び生態と被害の特徴

1) 形態

成虫の体長は 14～16mm 程度。体色は暗褐色～黒色。前翅は幅広い三角形状で前縁中央に半楕円の白斑が存在する (写真 1)。幼虫は白色で、腹部から白い糸状の毛束が広がっている。枝内に産卵された部分の表面は毛状の白色蠟物質で覆われている (写真 2)。

2) 生態

極めて広食性。カキ、カンキツ類、キウイフルーツ、クリ、ブルーベリー、モ

モ、リンゴ等の果樹の他、チャ、各種植木類など多くの木本植物への寄生が報告されている。成虫、幼虫とも枝を吸汁し、寄主の枝に産卵をするが、年間発生世代数など生態は不明な点が多い。

3) 被害の特徴

集団で樹木の枝を吸汁し、その排泄物にカビが生え、すす病を誘発することがある（写真3）。また、成虫は樹皮を剥いで産卵するため樹が損傷し、細枝が枯れることもある。

6 防除対策

- 1) 令和7（2025）年10月30日現在、本種に対して登録のある薬剤はない。
- 2) 成虫・幼虫は物理的に捕殺する。
- 3) 産卵された枝は切除して圃場外に持ち出し、土中深くに埋設するか焼却処分する。
もしくは袋に密閉した状態で数か月保管し、袋の中で死亡したことを確認した上で処分する。

（引用・参考文献）

1. 令和6（2024）年11月27日 福岡県病虫害防除所
令和6年度病虫害発生予察特殊報第2号
2. 令和7（2025）年3月28日 熊本県病虫害防除所 令和6年度発生予察特殊報第1号
3. 令和7（2025）年8月15日 栃木県農業総合研究センター
令和7年度病虫害発生予察特殊報第1号



写真1 チュウゴクアミガサハゴロモの成虫



写真2 カンキツ枝の産卵痕



写真3 枝を集団で吸汁する成虫